国際保健医療福祉学分野

論文

A　欧文

A-a

1．Taira Y, Matsuo M, Orita M, Matsunaga H, Takamura N, Hirao S: Assessment of localized and resuspended 137Cs due to decontamination and demolition in the difficult-to-return zone of Tomioka town, Fukushima Prefecture. Integrated Environmental Assessment and Management 18(6): 1555-1563,2022. doi: 10.1002/ieam.4625. (IF: 3.1)

2．Kashiwazaki Y, Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Oishi K, Takamura N: Occupational Difficulties of Disaster-Affected Local Government Employees in the Long-Term Recovery Phase after the Fukushima Nuclear Accident: A Cross-Sectional Study Using Modeling Analysis. International Journal of Environmental Research and Public Health 19(7): 3979,2022. doi: 10.3390/ijerph19073979. (IF: 4.6)

3．Matsunaga H, Orita M,Liu M, Kashiwazaki Y, Taira Y, Takamura N: Evaluation of Residents' Timing of Return to or New Settlement in Kawauchi Village, at 10 Years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. . International journal of environmental research and public health 19(1): 543,2022. doi: https://doi.org/10.3390/ijerph19010543. (IF: 4.6)

4．Matsunaga H, Orita M,Taira Y,Shibayama K, Shinchi K, Takamura N: Risk perception regarding a nuclear accident and common factors related to health among guardians residing near a restarted nuclear power plant in Japan after the Fukushima accident . International Journal of Disaster Risk Reduction 70(-): 102776,2022. doi: https://doi.org/10.1016/j.ijdrr.2021.102776. (IF: 5)

5．Matsunaga H, Orita M,Liu M, Taira Y, Takamura N: LIFE SATISFACTION AND FACTORS AFFECTING SATISFACTION IN KAWAUCHI VILLAGE RESIDENTS AT 10 Y AFTER THE FUKUSHIMA DAIICHI NUCLEAR POWER PLANT ACCIDENT. . Radiation protection dosimetry 198(1): 23-30,2022. doi: https://doi.org/10.1093/rpd/ncab186. (IF: 1)

6．Liu M, Matsunaga H, Orita M, Taira Y, Takamura N: Risk perception of genetic effects and mental health among residents of Kawauchi village, 10 years after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. . Journal of radiation research 63(2): 261-263,2022. doi: https://doi.org/10.1093/jrr/rrab108. (IF: 2)

7．Matsunaga H, Kashiwazaki Y,Orita M, Taira Y, Takamura N: Risk perception of internal and external radiation exposure among administration staff affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant accident. . Journal of environmental radioactivity 248(-): 106869,2022. doi: https://doi.org/10.1016/j.jenvrad.2022.106869. (IF: 2.3)

8．Thu Zar W, J. Lochard J, Taira Y, Takamura N, Orita M, Matsunaga H: Risk communication in the recovery phase after a nuclear accident: The contribution of the-co-expertise process . Radioprotection 57(4): 281-288,2022. doi: https://doi.org/10.1051/radiopro/2022031. (IF: 1.1)

9．Fukahori S, Obase Y, Chizu Fukushima, Daisuke Takao, Iriki J, Ozasa M, Zaizen Y, Takamura N, Fukuoka J, Ashizawa K, Mukae H: Determining response to treatment for drug-induced bronchocentric granulomatosis by the forced oscillation technique.. Medicina 57(45): 1315,2022. doi: https://doi.org/10.3390/medicina57121315. (IF: 2.6)

A-b

1．Taira Y, Matsuo M, Orita M, Matsunaga H, Kashiwazaki Y, Xiao X, Hirao S, Takamura N: Regional Case Studies: Environmental Radioactivity Levels and Estimated Radiation Exposure Doses of Residents and Workers in Areas Affected by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. Radiation Environment and Medicine 12(1): 37-52,2022. doi: https://doi.org/10.51083/radiatenvironmed.12.1_37.

B　邦文

B-e-1

1．高村　昇：福島における帰還企図,放射線リスク認知とメンタルヘルス . 長崎医学会雑誌 97: 219-222, 2022.

2．菊池美保子, 西 康一, 高村 昇, 塚田祥文：2019年～2020年に採取した福島県浪江町における自家消費作物中放射性Cs濃度と内部被ばく線量. Radioisotopes 71(3): 185-193, 2022.

3．工藤 崇, 高村 昇, 松田尚樹, Aiganym Imakhanova, Nessipkhan Arman, 粟井和夫, 伊藤 浩, 織内 昇 ：大学病院における医療従事者の被ばく実態調査 改正電離則の影響(Measurement of occupational radiation dose in medical worker in university hospital: Effect of revison of ordinance on prevention of ionizing radiation hazards) ．日本放射線影響学会大会講演要旨集 65回 : 208, 2022.

4．劉 夢潔, 松永妃都美, 折田真紀子, 平良文亨, 高村 昇：福島第一原子力発電所事故から10年目における川内村住民の遺伝的影響に関する放射線リスク認知とメンタルヘルス ．日本衛生学雑誌 77(Suppl): S183-S183 , 2022.

5．松永妃都美, 折田真紀子, 柏崎佑哉, 平良文亨, 高村 昇：福島第一原子力発電所事故後に再稼働した原子力発電所周辺地域に居住する保護者の原子力災害や放射線被ばくに関連するリスク認知. 日本衛生学雑誌 77(Suppl): S183-S183 , 2022.

学会発表数

A-a	A-b		B-a	B-b	
	シンポジウム	学会		シンポジウム	学会
0	0	0	0	0	5

社会活動

氏名・職	委　員　会　等　名	関　係　機　関　名
高村　昇・教授	東日本大震災・原子力災害伝承館館長	公益財団法人　福島ｲﾉﾍﾞｰｼｮﾝｺｰｽﾄ構想推進機構
高村　昇・教授	福島大学環境放射能研究所副所長	福島大学
高村　昇・教授	疫学部　顧問	公益財団法人　放射線影響研究所
高村　昇・教授	共創アドバイザー	公益財団法人　環境科学技術研究所
高村　昇・教授	支援センター運営委員会委員	公益財団法人　原子力安全研究協会
高村　昇・教授	臨床研究部　顧問	公益財団法人　放射線影響研究所臨床研究部
高村　昇・教授	第14回永井隆平和記念・長崎賞選考委員会委員	長崎・ヒバクシャ医療国際協力会
高村　昇・教授	長崎市国民保護協議会委員	長崎市
高村　昇・教授	客員研究員	広島大学原爆放射線医科学研究所
高村　昇・教授	福島県「県民健康調査」検討委員会　座長	福島県
高村　昇・教授	福島県　放射線と健康アドバイザリーグループアドバイザー	福島県
高村　昇・教授	中間貯蔵所去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会コミュニケーション推進チーム　座長	環境省 環境再生・資源循環局
高村　昇・教授	科学研究費委員会専門委員（2段階書面審査審査委員）	独立行政法人　日本学術振興会
高村　昇・教授	令和４年度新産業創出等研究開発委託費に係る国際シンポジウム調査委員	経済産業省
高村　昇・教授	中間貯蔵除去土壌等の減容・再生利用技術開発戦略検討会に係る委員	環境省 環境再生・資源循環局
高村　昇・教授	雲南市原子力安全顧問	島根県雲南市
高村　昇・教授	長崎市原子爆弾放射線影響研究会委員	長崎市
高村　昇・教授	双葉町放射線量等検証委員会委員	福島県双葉郡双葉町
高村　昇・教授	楢葉町放射線健康管理委員会委員	福島県双葉郡楢葉町
高村　昇・教授	富岡町行政不服審査委員	福島県双葉郡富岡町

競争的研究資金獲得状況（共同研究を含む）

氏名・職	資金提供元/共同研究先	代表・分担	研　究　題　目
高村　昇・教授	環境省	代表	放射線の健康影響に係る研究調査事業 大熊町、富岡町におけるリスクコミュニケーションを通じたリスク認知、メンタルヘルスの経時的変化の評価
高村　昇・教授	日本学術振興会	代表	国際共同研究加速基金(国際共同研究強化(B)) チェルノブイリから福島を知る～甲状腺超音波所見の自然史
高村　昇・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究C 長崎原爆の地形遮蔽による低線量被曝に関する疫学研究
高村　昇・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究C 原子力災害被災地における復興・帰還事業に係る情報発信と情報の受け止め方の検証
高村　昇・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究C IVR介助看護師の被ばく低減に対する放射線防護教育プログラムの構築
高村　昇・教授	日本学術振興会	分担	基盤研究C 原子力災害における地域の中核病院看護師への防災教育システムの構築
柏崎佑哉・助教	日本学術振興会	代表	研究活動スタート支援 不確かさ不耐性特性が放射線リスク認知とリスク受容に及ぼす影響に関する実証研究
折田真紀子・准教授	日本学術振興会	代表	研究活動スタート支援 福島第一原発事故の処理水放出に関する周辺住民の不安に関連する要因の解明
松永妃都美・助教	日本学術振興会	代表	基盤研究B 放射線防護リスクコミュニケーション現任教育モデルの検証
松永妃都美・助教	日本学術振興会	分担	基盤研究C 多職種連携をめざした大学院における実践的な国際看護の教育プログラムの開発研究
肖　旭・助教	日本学術振興会	代表	研究活動スタート支援 原子力災害から10年が経過した福島県内と県外住民へのリスクコミュニケーションの検討

その他

非常勤講師

氏名・職	職（担当科目）	関　係　機　関　名
高村　昇・教授	非常勤講師（キャリア支援）	純真学園大学
高村　昇・教授	非常勤講師（福島原発事故と災害復興）	学校法人　昌平黌

新聞等に掲載された活動

氏名・職	活動題目	掲載紙誌等	掲載年月日	活動内容の概要と 社会との関連
高村　昇・教授	福島の被災体験収集をスタートした。	産経新聞	2022年4月3日	東日本大震災・原子力災害伝承館は、平成23年3月の震災と東京電力福島第1原発事故で被災した福島の人々の体験収集を本年度から始めた。「複合災害を経験した福島の人にしか語れないことがたくさんある。次の災害への教訓にし、国際的にも発信するべきだ」と語った。
高村　昇・教授	福島の被災体験収集をスタートした。	福島民友	2022年4月3日	東日本大震災・原子力災害伝承館は、平成23年3月の震災と東京電力福島第1原発事故で被災した福島の人々の体験収集を本年度から始めた。「被爆から77年となる長崎では被爆者の記憶が薄れたり、変わったりしている。証言収集は記憶が新しい早い時期から始めることが大事だ」と強調した。
高村　昇・教授	福島の被災体験収集をスタートした。	日経新聞	2022年4月4日	東日本大震災・原子力災害伝承館は、平成23年3月の震災と東京電力福島第1原発事故で被災した福島の人々の体験収集を本年度から始めた。「被爆から77年となる長崎では被爆者の記憶が薄れたり、変わったりしている。証言収集は記憶が新しい早い時期から始めることが大事だ」と強調した。
高村　昇・教授	福島の被災体験収集をスタートした。	福島民報	2022年4月4日	東日本大震災・原子力災害伝承館は、平成23年3月の震災と東京電力福島第1原発事故で被災した福島の人々の体験収集を本年度から始めた。「被爆から77年となる長崎では被爆者の記憶が薄れたり、変わったりしている。証言収集は記憶が新しい早い時期から始めることが大事だ」と強調した。
高村　昇・教授	「福島、その先の環境へ。対話フォーラム」へ参加し、討論や質問への回答を行った。	福島民報	2022年4月15日	「被ばくは子や孫といった次世代に影響しますか？」との参加者からの質問に、「原爆の被害を受けた広島や長崎において実施されている被ばく二世の方の健康状態に関する様々な研究では、がんのリスクが高まるといった健康影響は示されていない。昆虫や植物に関しては、高線量の放射線を浴びることによる遺伝的影響が報告されている例もあるが、ヒトに対する遺伝的影響は証明されていない。」と回答した。

高村　昇・教授	「福島、その先の環境へ。対話フォーラム」へ参加し、討論や質問への回答を行った。	福島民友	2022年4月15日	「原子力施設からの廃棄物の基準と、再生利用の基準はなぜ異なる？」との参加者からの質問に、「再生利用した後も、周辺の放射線量や施設を利用する人の被ばく線量などを継続的にモニタリングし、安全性を担保していく。」と回答した。
高村　昇・教授	5月13日、県民健康調査検討委員会の会合が福島市で開かれ、新座長としての抱負を語った。	福島民報	2022年5月14日	福島県県民健康調査検討委員会の新座長に選出された。「原発事故が発生して一週間後に福島県に入り、活動してきた。出身も在住も福島県ではないが、特別な思いがある。県民の健康を守る委員会の座長として、さらに注力する。」と語った。
高村　昇・教授	5月13日、県民健康調査検討委員会の会合が福島市で開かれ、新座長としての抱負を語った。	河北新報	2022年5月14日	福島県県民健康調査検討委員会の新座長に選出された。「福島の健康を守る職務に全力を尽くす。」と述べた。
高村　昇・教授	5月13日、県民健康調査検討委員会の会合が福島市で開かれ、新座長としての抱負を語った。	福島民友	2022年5月14日	福島県県民健康調査検討委員会の新座長に選出された。「県民の不安に寄り添い、県民の健康を守るという調査の本来の目的を果たし、よりよい県民健康調査を行っていくため議論していきたい。９年近く委員を務めており、引き続き力を尽くしていく。」と語った。
高村　昇・教授	5月13日、県民健康調査検討委員会の会合が福島市で開かれ、新座長としての抱負を語った。	朝日新聞	2022年5月14日	福島県県民健康調査検討委員会の新座長に選出された。「県民の不安に寄り添い、健康を見守るという調査の本来の目的を果たすため議論したい。」と述べた。
高村　昇・教授	5月24日に川内村にて行われた、村づくり会社かわうちラボの活動報告会において、座談会に参加した。	福島民報	2022年5月26日	一般社団法人かわうちラボの活動報告会にて、村商工会の井出茂会長、一般社団法人ならはみらいの石崎芳行顧問とともに、座談会に参加した。
高村　昇・教授	5月24日に川内村にて行われた、村づくり会社かわうちラボの活動報告会において、座談会に参加した。	福島民友	2022年5月27日	一般社団法人かわうちラボの活動報告会にて、村商工会の井出茂会長、一般社団法人ならはみらいの石崎芳行顧問とともに、座談会を開いた。「自然が豊かで村民が温かい」「村産のキノコがおいしい」など、外部の視点から見た村の「宝物」を紹介した。
高村　昇・教授	6月3日、東日本大震災・原子力災害伝承館で、福島の復興推進拠点活動報告会を開いた。	長崎新聞	2022年6月4日	被災地に学生を招いての人材育成や、住民への放射能に関する情報提供といった、長崎大学の活動を報告。「ニーズに合わせた支援を続けたい。」と語った。
高村　昇・教授	6月3日、東日本大震災・原子力災害伝承館で、福島の復興推進拠点活動報告会を開いた。	福島民友	2022年6月4日	高村昇教授が座長を務め、川内、富岡、大熊、双葉の4町村の首長らと共に、復興の現状を語る座談会を開いた。

高村　昇・教授	6月3日、東日本大震災・原子力災害伝承館で、福島の復興推進拠点活動報告会を開いた。	福島民報	2022年6月4日	被ばくや放射線に関する研究、支援セミナーの活動状況など紹介した。今後の展望として、「被ばく医療科学分野の人材育成や準備宿泊者への戸別訪問などを実施したい。」と説明した。
高村　昇・教授	6月30日、東京都千代田区で行われた、放射線被ばくを巡る情報提供の在り方を考える環境省主催の公開講座に参加した。	長崎新聞	2022年7月5日	パネル討論で、被災地住民との「信頼」を築く重要性を指摘した。また、「事故直後は分かりやすくシンプルにメッセージを出すことが大事だが、復興期は、より住民に寄り添って信頼を得ることが専門家に求められる」と強調した。
高村　昇・教授	8月18日、国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館で本年度第1回の「被爆者健康講話」が開かれ、放射線被ばくと健康影響について話した。	長崎新聞	2022年8月19日	放射線についての基本知識や日常生活での被ばくについて説明。東京電力第1原子力発電所事故から原子力災害の被害や復興の様子を紹介し、「原子力災害は復興までに時間がかかる。長崎からも関心を寄せてほしい。」と述べた。
高村　昇・教授	8月26日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた長崎大学のウクライナ避難学生へ向けて、福島医大副学長と講義・議論を行った。	福島民報	2022年8月27日	東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた長崎大学のウクライナ避難学生へ向けて、震災の津波で流された郵便ポストや第一原発模型等、英語で案内をした。また、講演と意見交換を行った。
高村　昇・教授	8月26日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた長崎大学のウクライナ避難学生へ向けて、福島医大副学長と講義・議論を行った。	福島民友	2022年8月27日	東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた長崎大学のウクライナ避難学生へ向けて、山下俊一長崎大学名誉教授・福島医大副学長とともに、講義と議論を行った。
高村　昇・教授	防災特集欄において、東日本大震災・原子力災害伝承館、福島の復興と現状に関するインタビューに答えた。	建設工業新聞	2022年9月1日	東日本大震災・原子力災害伝承館設立の経緯に加え、開館以来の来場者数、復興と共に風化する記憶をどのようにとどめるのか、という質問に答えた。
高村　昇・教授	10月30日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた田上富久市長を案内した。	福島民報	2022年10月31日	東日本大震災・原子力災害伝承館を初めて訪れた田上市長に、震災の津波で変形した消防車や、原発事故の水素爆発の様子をまとめた映像などで案内をした。
高村　昇・教授	12月13日、東京電力福島第一原発事故の国外での風評払拭に向けた、復興庁主催の海外向けオンラインイベントに参加した。	福島民報	2022年12月14日	ヨーロッパのニュース専門放送局であるユーロニュースのサイトで、東の食の会事務局代表の高橋大就氏、英国の防災研究の専門家らと意見交換を行った。
高村　昇・教授	11月24日、東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた、欧州連合（EU）のジャン・エリック・パケ次期駐日大使を案内した。	福島民友	2022年11月25日	東日本大震災・原子力災害伝承館を訪れた、欧州連合（EU）のジャン・エリック・パケ次期駐日大使を案内し、震災や原発事故について説明を行った。

高村　昇・教授	11月25日、長崎大学が主催するワークショップにおいて、復興に向けた取り組みなどを紹介した。	福島民報	2022年11月26日	原子力や放射線などの国際機関の専門家と、長崎大学の留学生らによるワークショップ（長崎大学主催）において、福島県復興に向けた取り組みなどを紹介した。
高村　昇・教授	12月18日、NPO法人「富岡３．１１を語る会」によって開かれた「伝承祭」において、講評を行った。	福島民友	2022年12月19日	NPO法人「富岡３．１１を語る会」によって、富岡町で「伝承祭」が開かれた。「若い人も語り部として活動してほしい」と講評した。
高村　昇・教授	環境省が展開する「対話フォーラム」について、改善点を指摘した。	福島民友	2023年1月16日	福島県内の除染で出た土壌の県外最終処分への取り組みとして、土壌を土木資材で再生利用する計画の認知度向上を目的に環境省が展開する「対話フォーラム」について、「本当の（意味での）対話は時間が取れていないと感じている」と、指摘した。
高村　昇・教授	1月25日、長崎大学福島未来創造支援研究センター主催の原子力災害復興学セミナーに、センター長として参加した。	福島民友	2023年1月26日	「放射線被ばくと健康影響」をテーマに、チェルノブイリ原発事故と福島第１原発事故の被ばく線量の違いなどを説明。また、福島県での甲状腺がんと被ばくの因果関係は認められないとの分析などを解説した。
高村　昇・教授	復興がすすむ福島について、ウクライナの学生のマルドバさん、松井史郎副学長と意見交換した。	長崎新聞	2023年3月10日	「どうしたら長い間避難している人たちが戻ってこれますか。」とのウクライナの学生からの問いに対し、「避難先で生まれた子にとってはそこが古里。12年という時間は重い。行政や住民、専門家が情報を出し合い、避難した人がどうするかを決めるための材料を出すことが大事。」と話した。
高村　昇・教授	3月11日、福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、カンニング竹山氏と対談した。	福島民報	2023年3月12日	福島県の「3.11メモリアルイベント」が東日本大震災・原子力災害伝承館で開かれ、カンニング竹山氏と「震災12年の軌跡とこれから」をテーマに対談した。
高村　昇・教授	3月11日、東日本大震災・原子力災害伝承館において、カンニング竹山氏と、震災から12年の軌跡や福島の未来について意見を交わした。	福島民友	2023年3月12日	カンニング竹山氏と、震災から12年の軌跡や福島の未来について意見を交わし、「伝承館は複合災害を後世に伝えるミッションを担う。これから増える震災を知らない世代にも広く伝承していきたい。」と話した。
高村　昇・教授	3月20日、長崎大学主催の活動報告会において、双葉町の伊沢史朗町長と対談を行った。	福島民友	2023年3月23日	3月20日、長崎大学主催の活動報告会において、双葉町の伊沢史朗町長と対談を行い、復興に果たす研究機関の役割などについて意見交換した。